

## 全学共通科目 学修成果及び学修環境

### 【全学共通教育】

#### [教育目的]

建学の精神と中京大学の理念に基づいて、人類が築いてきた知の成果に対する理解を深めつつ、総合的な知を身につけるために、次のような教養教育を行う。

- 1、言語的コミュニケーション能力を高める。
- 2、心身の健康の保持と増進及び体力を向上させる。
- 3、人文・社会・自然科学の分野における体系的な教養を獲得する。
- 4、現代社会が直面しているさまざまな課題に対する主体的判断力を育成する。

こうした教養教育を重視することにより、専門教育との連関を図りつつ、職業人であると同時に世界市民として社会の発展に寄与できる人材の養成に努める。

#### [学修成果と学修環境]

上記の教育目的を達成するために、ゼミ、コンピュータ、コンピュータ処理論、英語、第二外国語、スポーツ・健康、自然の探究、人間の探究、社会の探究、新領域、教養テーマ講義、自校教育の各科目を配置している。また、教職を志す学生のための全学共通の教職科目を配置している。それぞれの分野の学修成果及び学修環境は、以下のとおりである。

### 【言語教育：英語】

#### [学修成果]

- 1、読む・書く・聞く・話すという基本的技能を身につけ、場面や状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
- 2、留学や社会活動などの実践の場において、英語によって状況を把握し、情報を発信することができる。
- 3、上記の基本技能を習得することに加え、異文化の多様性を理解・尊重し、それについて自らの意見を述べることができる。

#### [学修環境]

- 1、学生が自分の語学レベルやニーズに応じたクラスを選択できる。
- 2、学内教育支援システムの活用により、教材を効果的・効率的に配布し、学生の予習・復習を支援する。
- 3、1年次の英語基礎科目(選択必修科目)終了後、より高次の英語運用能力を養うために、各種応用クラスを提供する。

### 【言語教育：ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国朝鮮語、日本語】

#### [学修成果]

- 1、読む・書く・聞く・話すという基本的技能を身につけ、場面状況に応じて適切なコミュニケーションができる。
- 2、各言語圏の文化や社会とその多様性を理解し、それについて自らの考えを述べるができる。
- 3、日本語学修者(留学生)は大学での学修を可能にする高度な日本語運用能力を身につけ、口頭での発表やレポートを作成することができる。

#### [学修環境]

- 1、言語ごとに、基本的技能を総合的に学ぶ基礎クラスを、1年次に週2回提供する。
- 2、基礎クラス終了後、より高次の言語能力を養うための演習・応用クラスを提供する。
- 3、各クラスにおいて言語能力を養う過程で、それぞれの言語圏の文化や社会について学ぶ機会を提供する。
- 4、日本語学修者には日本語能力を高めるために週4回少人数日本語クラスを提供する。また、大学で必要なアカデミックな日本語運用能力を高めるため、週4回のクラスを提供する。

#### 【スポーツ実技】

##### [学修成果]

- 1、個人スポーツ系科目：スポーツに関する深い理解を持ち、多様な運動技能を身につけている。
- 2、チームスポーツ系科目：チームスポーツにおける個々の役割と技能への理解を持ち、集団的技能及び協応性を身につけている。
- 3、フィットネス系科目：健康管理や体力づくりに必要な運動について理解し、運動メニューの作成及び実践ができる。
- 4、障害者スポーツ：身体的障害の程度に応じて運動の手段や方法を検討し、運動メニューを作成することができる。

##### [学修環境]

- 1、学生の自主性を尊重するため、希望する種目クラスの履修を優先させるとともに、4年間8セメスターで受講の場と機会を提供する。
- 2、学部・学年の枠を超えて学生間の交流を深めるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力を養成する場と機会を提供する。
- 3、クラスごとに受講者数の上限を定め、全員の身体活動量が高まるようにする。
- 4、視覚情報を利用するための装置を導入することにより、学生の技術習得を促す。さらに、生理学的指標を利用することにより、学生が自身の身体状況を把握するための情報を提供する。

#### 【人間の探究】

##### [学修成果]

- 1、日本及び世界の歴史・文学に関する知見を獲得して、多様な価値観の存在を理解し、自己と他者の文化的背景について説明できるようになる。
- 2、人間の思索や言葉を主たる対象として培われてきた人文科学の手法及び成果を学ぶことにより、論理的な思考力と表現力を身につけている。
- 3、人文科学の培ってきた歴史的成果や現代の学際的な方法を学ぶことで、人間の心の本質について深い知見を得ることができる。

##### [学修環境]

- 1、人文科学の幅広い領域に対応した17科目を開設し、学生自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

#### 【社会の探究】

##### [学修成果]

- 1、現代社会に至る時代感覚を身につけ、法・政治・経済の基本的な理論や内容を理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 2、グローバル化した現代社会の中で、歴史的・地理的な比較を通して、さまざまな社会事象を把握し、説明することができる。

##### [学修環境]

- 1、社会科学の領域に対応した12科目を開設し、学生が自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

## 【自然の探究】

### [学修成果]

- 1、自然科学及びこれに密接に関係する数学・統計学の基礎知識を身につけ、それぞれの学問の役割を認識し説明することができる。
- 2、数理的に扱うことができる対象が、自然現象を始めとした世の中の事象の中に非常に多くあることを知り、その具体例を説明することができる。
- 3、日常生活におけるさまざまな現象を科学的・数理的な視点から考えることができ、科学的な根拠を取捨選択することができる。

### [学修環境]

- 1、自然科学の領域に対応した12科目を開設し、学生が自ら関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、実験や野外観察、ビデオなどの視聴覚教材を駆使し、理解の促進に配慮した授業を提供する。
- 3、e-Learning システム、Web サイト、プレゼンテーション・ソフトなどのIT技術を利用しながら教材を効果的・効率的に提供する。

## 【新領域】

### [学修成果]

- 1、国際問題や国内における政治・経済・社会問題、性差（ジェンダー）や異文化をめぐる問題、環境問題、情報化社会の問題など現代社会が直面する諸課題について多面的に理解し、それについて自らの考えを述べることができる。
- 2、上記の諸課題に関する知識を獲得するにとどまらず、現代社会を生きる当事者としての問題意識を深め、市民としての役割について理解し、それについて自らの考えを述べるができる。
- 3、健康に関する体系的な「知」を獲得するとともに、日常生活やライフステージに応じて「健康づくり」を実現しようとする力を身につけている。

### [学修環境]

- 1、現代社会の直面する課題に関係する13科目を開設し、学生が自らの関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、グループ・ディスカッション等を中心にした授業運営により、自らの問題意識や理解を高めあう場と機会を積極的に提供する。
- 3、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

## 【ゼミ・教養テーマ講義】

### [学修成果]

- 1、大学で学ぶために必要な「読む・書く・話す」の基本的な技術と学びの姿勢を身につけることができる。
- 2、時事的かつ専門的なテーマの学修を通じて、社会の発展や問題、事柄を客観的に捉え、それについて自らの考えを述べるができる。
- 3、時事的かつ専門的なテーマを自発的に調査し、自律的かつ批判的に考察したうえで、創造的な成果を提示することができる。

### [学修環境]

- 1、時事的かつ専門的なテーマを扱う4つの講義と演習科目を開設し、学生が自らの問題意識をもとに履修できる環境を提供する。
- 2、グループ・ディスカッション等を取り入れた授業運営により、能動的かつ自発的な学修機会を提供する。
- 3、IT技術を利用しながら教材を効果的・効率的に提供する。

## 【自校教育】

### [学修成果]

- 1、中京大学の歴史と現状についての学修を通じて自校についての知識を身につけることができる。
- 2、上記の知識に加えて、日本の経済・社会や中京圏との関係性の中に中京大学の歴史を位置づけることを通じて、中京大学の特性について理解し、説明することができる。
- 3、大学における学びを客観的に捉える機会を通じて、社会の中での自らの立ち位置を客観的に捉え、それについて自らの考えを述べるることができる。

### [学修環境]

- 1、中京大学について関心を持つ学生に自校の歴史・現状・特性について学ぶ機会を提供する。
- 2、レポート執筆の機会を授業内に設けることにより、思考力及び文章力を磨く機会を積極的に提供する。
- 3、グループ・ディスカッション等を随時採り入れる授業運営により、自らの問題意識や理解を高めあう場と機会を積極的に提供する。
- 4、IT環境を活用して教材を効果的・効率的に提供する。

## 【コンピュータ処理】

### [学修成果]

- 1、OS（基本ソフト）が提供するユーザインターフェイスを介して、コンピュータの基礎的概念や操作が修得できる。
- 2、コンピュータの動作原理やネットワークの仕組みの理解に基づいて、Web ページを制作できる。
- 3、ソフトウェアの役割を理解し、大量データを処理するためのプログラムを作成できる。

### [学修環境]

- 1、コンピュータ処理に対応した2科目を開設し、学生が自ら関心と問題意識にもとづいて科目を選択、履修する機会を提供する。
- 2、e-Learning システム、Web サイト、プレゼンテーション・ソフトなどの IT 技術を利用しながら教材を効果的・効率的に提供する。
- 3、主体的に Web ページやプログラムを作成できる PC 環境を提供する。